

「あなたらしさ」を大切にするには

佐世保北中学校2年 溝越 理彩

今年7月7日の長崎新聞で、8行の小さな記事が目に残りました。「性別違和感を巡る保育園でのいじめ認定」という見出しで「性別に違和感を抱えていることが原因で他の保育園の園児からいじめ行為を受けた」という訴えに「服装をからかう行為などはいじめと認定し、保育士を対象にLGBTQや発達障害への理解を深める研修を実施させるよう市に答申した」とありました。

詳しい内容をインターネットのニュースで調べると「園児は、戸籍上は男性だが性自認は女性」「他の園児が否定的にとらえる言動をしたことなどで不登園状態になった」「プリキユアのTシャツやピンク色の服装で登園すると男なのに女の格好をしている、とかからかう発言があった」「園児の自分は実は女の子である」という趣旨の発言に対し、嘘つき呼ばわりする行為があった」「あっちいけ、っいてくる

な、などと言われ、入れてと言っても入れてもらえなかった。など当時の保育園での様子が書かれていました。私はこの記事を知り、心が痛くなりました。いじめ行為をした園児たちは、今は理解しているのでしょうか。新聞では小さな記事でしたが、とても重要な内容だと思いました。

もう一つ気になった記事がありました。5月18日の長崎新聞で「マイクログレッシュン（小さなけなし）」について書かれたもの

です。女性なのにすごい「日本語お上手です」ね。などには、特定の人たちを見下げる意識が言動に隠れているそうです。ジェンダー、外国人、LGBTなどに対しての発言の中に暗に伝わる否定的なメッセージがあったり、これは明らかに暴言と異なり、言った本人も自覚していないため、言われた人が「差別されてたのではないか」と思い悩み、心身へのダメージが大きいのだそうです。

日常生活の中で、確かに「女なのに」「男

なのに「と見聞きする場面があります。」「女性
は、男性は、こうでなければならぬ」とい
う無意識の思い込みや偏見もあるように感じ
ます。多数派の人には気づきにくいことだと
思いますが、人の心を傷つけることがあるこ
とに気づくことが大切だと思います。

今、様々な社会の中では、男女を隔てず、
多様な選択肢があります。世の中は「あなた
らしい」を築く「あたらしい」社会へ動き出
しています。中学生の私にできることは、世

の中のことを知り、どうすべきか自分で考え
ることが重要だと思います。無意識の差別や
偏見を持たないように、まずは自分から意識
して発言や行動をしていきたいと思っています。
ひとりひとりが、自分の考えや価値観を主張
するのではなく、お互いの違いを認め、相手
の価値観を尊重する姿勢を持つことがとても
大切なことだと思います。